

(公社)日本産業退職者協会広島支部

〒730-0036 広島市中区袋町6番36号 広島市まちづくり市民交流プラザ内 BOX1

日退協ホームページアドレス <https://jariphiroshima.sakura.ne.jp/>

## 広島支部創立30周年記念事業を終えて



(公社)日本産業退職者協会  
広島支部 副支部長

平石 純一

祝賀会の開催など日退協広島支部創立30周年記念事業を展開するにあたり、実行委員会を設置することになって、準備委員会において実行委員会立上げの検討を行いました。20周年記念事業をお手本として、事業計画を検討し具体策を立案することにしました。

事業の実施にあたっては、セレモニー小委員会、活動紹介展小委員会及び記念誌編集小委員会の3小委員会が、具体的な計画を立て活動を進めました。

オープンセレモニーは、令和3年5月開催の予定でしたがコロナ禍で延期せざるを得なくなり、令和4年5月に1年遅れで祝賀会として開催することができました。コロナ禍にも関わらず、ご来賓を始め100人近い会員及び家族会員が祝賀会に参加され、詩吟を楽しむ会の合吟や歌謡ショーなどのイベントを楽しみ、歓談に花が咲きました。

すべての同好会が出品して、活動紹介展が計画通り令和4年6月に開催出来ました。多くの来場者が訪れ、展示作品に感動されました。また、色々な事業や同好会活動を行っていることに関心をお持ちいただき、盛況裡に3日間の幕を閉じました。

記念誌『30年の歩み』を編纂することになったのは、令和2年7月の準備委員会でした。広島支部の活動記録であるとともに、会員一人一人の活動の足跡を残すこと、会員に読みやすいことに主眼を置いてビジュアルな編纂をし、さらに、今後記念誌を編集しようとしたときに、本誌が参考になるように考えて作成をしました。

本誌を作成するにあたっては、諸先輩、各同好会

の代表世話人からご寄稿を頂きました。

『30年の歩み』を本年9月に発刊し、30周年記念事業は全ての行事を完了し、実行委員会は役目を無事果たし終えました。

これまでの多くの会員のご協力と、実行委員並びに小委員会委員のご努力に感謝申し上げます。

## 留学生との交流会3年ぶりに開催

姫野 甯尋

10月15日に広島市留学生会館で留学生と日退協の交流会が3年ぶりに開催されました。コロナ禍の為過去2年間休止状態であったが、感染拡大防止対策を考慮し、従来行っていた食事とアルコール提供を止めるとともに参加者人数も制限してコンパクトな形での開催となった。今回は「日退協と留学生の音楽の調べ」のサブタイトルで開催された。

日退協の詩吟を楽しむ会の皆さんによる吟唱披露があったが、詩吟の説明書の裏面には英文翻訳が初めて印刷され、留学生の理解が少しでもできるように工夫されていた。詩吟の題目は「偶成」「偶感」と「本能寺」でした。

エリザベト音大の留学生4人(男性3人・女性1人)による楽器演奏と歌唱は、今回ポピュラーな曲が多くて皆さんが喜んでおられたようにお見受けしました。



世話人の中村松代様が参加者全員へ手作りのお土産を提供され、全員が二人ずつじゃんけんして勝った人から色も鮮やかな袋帯で作ったクッションカバーや絵を選択して貰い受けることができました。

最後に留学生の楽器演奏のもと、日退協広島支部唱歌(青い山脈の替え歌・作詞新延伸雄様)を石

谷りょう子様主導により全員で楽しく歌いました。

余談ですが、留学生との交流会世話人は全体的に高齢化していることと、世話人の人数が少なくなっており、今後の活動継続が困難になることが予想されます。

(留学生との交流会 世話人)

## 「達人たちの夢・2022」参加レポート

岡本 典男

9月16日(金)・17日(土)、ひと・まちプラザ研修室の日退協ブースで広島市主催「達人たちの夢」に参加し、会員の作品を出展、紹介した。

作品展示 女性バラエティ同好会、写真を楽しむ会、園芸・盆栽同好会、陶芸同好会、がらす川柳会、写画一る会の各同好会メンバー総計55人が想いを込めて仕上げた日頃の作品を持寄り、展示、披露した。作品総点数は168点。

来場者数 日退協ブース159人の内、芳名録記帳者92人(支部会員66人、一般来場者26人)

残暑とコロナ感染者急増で色々心配や不安があったが、何とか予定通り3年振りの開催となった。コロナ禍で今回の企画は規模を縮小し、開催期間も短縮、2日間となり、来場者数は前回に比べて減となったが、展示内容のレベルは確実に上がっていた。入会コーナーも設け、支部の活動紹介パンフレットも準備し、一般来場者に我々の活動内容をPRした。又、受付&会場案内にも延べ人数21人が快く引き受けてくださり、夫々の役目を積極的に果たして頂き、強い連帯意識を感じた。



今回の行事を通じて、支部会員の皆様に支えられ、お互いに「元気」のエール交換が出来た事を確信した。多数の会員のご協力、ご配慮、ご苦勞に深く感謝し、これからの支部の発展と会員のご健勝を祈るばかりである。改めて【人生の達人】を目指し精進を重ねる事を誓った行事であった。

(達人たちの夢 実行委員)

## ゴルフ同好会

先本 義清

私が日退協広島支部に入会したのは平成30年だったと記憶しています。まだまだ入会間もない私に原稿の依頼が来て大変恐縮しております。日退協入会のお誘いが大学時代の友人の藤岡照行さんからありまして、もう一人の同級生と一緒に誘われ入会しました。藤岡君は残念ながら一昨年に胃がんを発症し亡くなりました。学生時代の友人たちとのゴルフコンペ帰りの車中で、我々と同じ様なりタイヤした方達が集まり、多種多様な同好会があり、老後を若々しく楽しんでいると案内し



てもらい、彼の誘いのまま入会の手続きをして現在に至っております。転勤族の私が広島に戻り、ゴルフを手取り足取り教えて頂いた者として当然の如くゴルフ同好会に所属しました。

初コンペは平成30年11月に行われた第138回で8位入賞に気を良くし今日まで続いています。第143

回の宮島志和CCでは同伴者に優勝だとおだてられ、結果準優勝で肩を落とした事もあります。今回、第154回千代田CCでは運よく優勝できたのは、友人であった藤岡氏の教えと、彼から頑張れよと励ましがあつたからだと感じています。またコロナ禍で活発な活動ができない同好会がある中、毎回お世話していただく世話人の方々にも感謝いたしたいと思います。ありがとうございます。

(会員)

## 「木楽会」の紹介

岸本 幸三

木を楽しむ会、「木楽会」です。いい名前ですね。この会に集まってみえる皆さんは、散歩が好きな人、花の好きな人、盆栽が好きな人、庭いじりが好きな人、自然の木々を眺めるのが好きな人たちです。この木はなんていうのかなあ、これは何の実かなあ、などと、木々の芽が吹き始めたころから、花が咲き乱れて、実が落ちる頃まで、年4回樹木観察をしながら歩く集まりです。

散策場所は、平和大通り、三滝寺、植物公園、

安佐動物公園、広島城址公園、平和公園、縮景園、宮島、元宇品、緑化センターなどです。これらの場所を順繰りに回ります。一回りするには約3年かかりますね。



行く先々での、樹木観察、みなさん心当たりがある木は、積極的に発言します。正解ですかと講師に尋ねます。だいたい正解率は70%位でしょうか。

この木の実は食べられるよ、美味しいよ、とか、触ったらかぶれるよ、とか。あれ、以前教えてもらったのに思い出せない。何度同じことを質問しても、その都度、丁寧に教えて頂けます。皆さん、「忘れてもだいじょうV (ヴァイ)」なんて、冗談も飛び交います、会話も楽しいですね。

こんな感じの「木楽会」です。皆さん一緒に樹木観察を楽しみましょう。

(木楽会 副代表世話人)

## ||||||| 錦帯橋鵜飼ツアー |||

福永 喜臣

この度の社会見学会は、岩国市の錦川清流線に乗車して列車旅を楽しんだ後、錦帯橋を背景に行われる鵜飼を遊覧船「もみじ舟」に乗船し、鮎弁当を食べながら間近で見学するという企画です。

お昼過ぎに広島駅を出発し一路、錦町駅に向か



い、そこから清流線に乗車しました。清流新岩国駅までの約1時間の列車旅でしたが、車窓から錦川沿いの美しい景色を堪能することが出来ました。

鵜飼は午後7時に開始され、船着場には午後6時集合とのことから、我々一行は開始までの約2時間を錦帯橋近辺の名所史跡・お土産店等を見学・散策しながら時間調整を行いました。

午後7時、待望の鵜飼の始まりです。早速、「もみじ舟」に乗船。当日は天候にも恵まれ風も穏やか、快適な船内でビール片手に鮎弁当に舌鼓を打ちつつの至福のひとつを過ごすことができました。やがて上流より篝火を灯した鵜舟2艘が近づいてきて「もみじ舟」の間近で、錦帯橋を背景に鵜と鵜匠がダイナミックな真剣勝負を繰り広げ、一同、歓声を挙げながら勇壮な時代絵巻を楽しませていただきました。

コロナ禍で社会見学会本来の工場見学が難しい時期ではありますが、こうした伝統文化に触れる企画を今後共お願いしたいと思います。

(会員)

## ||| “キャッシュレス化”とスマホ |||

伊藤 仁

先日、久しぶりに市内電車に乗った。ICカード「パスピー」を使っているが、この「パスピー」もコスト削減の観点から、3年後にはスマホによる「QRコード決済」に移行するとのことだ。



さて、ご承知の通り、国は「マイナンバーカード」の普及と“キャッシュレス化”の推進、且つコロナ禍で疲弊した経済の活性化にも繋げるため、

2020年の第1弾に続き、この6月から、第2弾として「マイナンバーカード」を取得し、且つその「マイナンバーカード」と「QRコード決済」、「クレジットカード」等所謂“キャッシュレス決済手段”と連携・登録し、その「決済手段」で、買物をした場合、その25%・上限5,000円分を「マイナポイント」として還元する(第1弾で取得した人は除く)。更に「健康保険証」としての利用申込み、「公金受取口座」を登録し、上記の「決済手段」と連携させれば、夫々、7,500円合計15,000円分の「マイナポイント」を還

元する施策を展開しており、スマホの利用は更に進みそう。

市役所においても住民票の取得費用等の支払いに“キャッシュレス決済”が進展している。

「PC・DCを楽しむ会」はスマホも取り上げ、「いきいきシニアライフ”を目指しています。

共に、学び、育てられ、孫に“やるじゃん”と言われる“爺・婆”に。入会をお待ちしています。

(PC・DCを楽しむ会 副代表世話人)

## ||||| コロナ禍での詩吟練習 |||||

重本 憲昭

私達、詩吟を愛する仲間は現在12人が在籍、毎月第3月曜日に、月1回、翠町老人集会所で勉強会を行っています。コロナが蔓延し始めた令和2年3月からは、広島市の指導もあり、2年度は10回、3



年度は6回の中止となりました。勉強会は、練習不足という厳しい現実となりましたが、4年3月に入り、勉強会ができる状況となりました。5月実施の日退協広島支部30周年祝賀会懇親会での出演依頼を受けました。出演させていただく以上、練習不足で恥ずかしい姿をお見せできません。吟題「楓橋夜泊」「本能寺」を決定。熱心に練習。5月26日の祝賀会に於いて、有志8人で合吟を披露しました。

毎月の練習は、最初に発声練習を行い、次いで、事前に配布した教材を基に、絶句(4行詩)の場合は、前半2行をリーダーが発声、これに習って全員が発声します。後半2行も同様にし、これを繰り返します。そして、全員で合吟、全体像を把握。最後に各人が独吟をして理解度を全員の前で披露します。私達が楽しんでいる漢詩の朗詠は、先人の心に接し、感動を覚え、思いやりの心を養います。また、腹の底から発声することで、心も身体も健康になり、人々の心に潤いを与えます。

これからも、新しい漢詩を習得し、皆様の前で披露できるよう精進しようと思っています。

(詩吟を楽しむ会 代表世話人)

## 広報の窓

行事・同好会参加人数 令和4年7月～令和4年10月

( )は家族会員再掲

◎世話人交流会	21人	(0人)
◎常任幹事会	人	(0人)
◎幹事会	46人	(0人)
◎新入会員の集い	21人	(0人)
◎30周年紹介展(実行委員会含む)	人	(0人)
◎運営委員会	52人	(0人)
◎二木会	263人	(4人)
◎留学生との交流会	34人	(0人)
	会員	
	留学生・他	20人 (0人)
◎達人たちの夢展	55人	(0人)
◎ゴルフ同好会	60人	(2人)
◎テニス同好会	112人	(1人)
◎釣り同好会	人	(0人)
◎四風会 月例・大会	人	(0人)
◎社会見学会	34人	(5人)
◎木 楽 会	10人	(0人)
◎朱 樹 会	34人	(1人)
◎歴史探訪会	49人	(7人)
◎園芸・盆栽同好会	16人	(0人)
◎囲碁同好会	105人	(0人)
◎写真を楽しむ会	25人	(0人)
◎謡を嗜む会	12人	(0人)
◎がんす川柳会	43人	(3人)
◎山を歩く会	44人	(3人)
◎写画一る会	32人	(3人)
◎男性料理教室	中止	人 (人)
◎PC・DCを楽しむ会	69人	(0人)
◎陶芸同好会	115人	(0人)
◎詩吟を楽しむ会	38人	(2人)
◎卓球クラブ	131人	(20人)
◎女性バラエティ同好会	17人	(5人)
◎G・ゴルフを楽しむ会	16人	(5人)
◎エスキーテニス	102人	(0人)
◎演歌ミニ道場	中止	人 (人)
◎なば愛好会	中止	人 (人)
		1576人 (61人)

◎切手収集 累計件数2951件

◎ベルマーク(カートリッジ含む) 累計件数555件

◎幹事会 7月21日、10月27日 ◎世話人交流会 9月29日

◎達人たちの夢展 9月16・17日 ◎新入会員の集い 9月20日

◎運営委員会 7月7日、8月2日、9月1日、10月6日

7月22日(発送)、9月22日(発送)

## ●●●● 編集後記 ●●●●

プロ野球広島東洋カープの新監督に新井貴浩氏の就任が決まった。球団関係者やファンからすれば、待望の人事ということになるだろう。持ち前のリーダーシップと誰からも好かれる性格は、監督業にはうってつけの人材だ。だが、託された仕事は困難が付き纏う。4年連続でBクラス、3年連続で負け越している現実が襲ってくる。前監督は、その優しさ故勝負に徹することができなかった場面が多々あった。若手の育成とプロとしての勝利の追求の二兎を追うことは、言うは易いが行方は難し。野球に限らず多くの監督たちが阻まれてきた高い壁だ。わかっていながらも敢えてその高壁に挑戦する45歳の青年が、どんな采配を見せてくれるのか、野球ファンとして楽しみにしたい。

(K・W)